

# 子どもたちによりよい地球を引き継ぐためには

事業者による3R

## 「ごみの発生抑制・再使用・再資源化」

(Reduce)

(Reuse)

(Recycle)

の取り組みが必要です

### 地球の温暖化は深刻な状況です

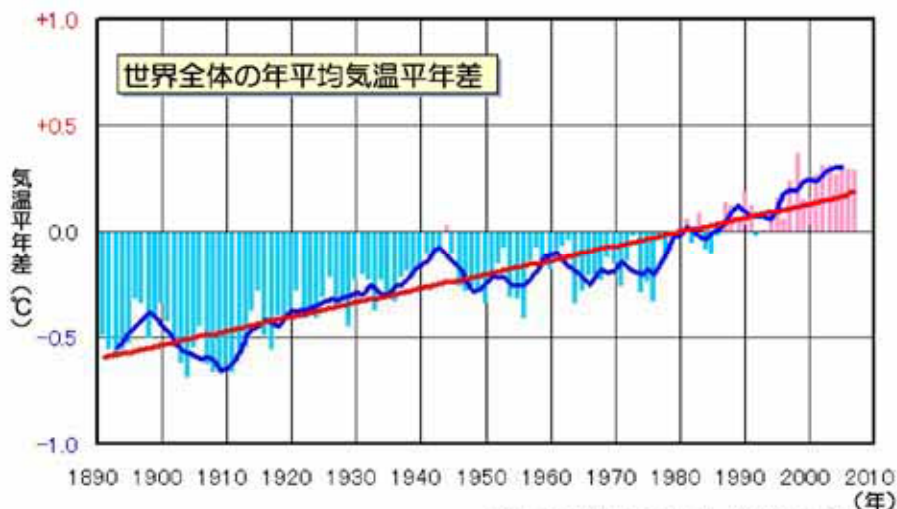
国連の報告によると、地球温暖化の原因は人間の活動によるものとされ、現在の生活・経済活動を今後も続けると、温暖化はさらに進行し、世界で気象災害や食糧不足が多発すると指摘されています。

発生したごみを運んで焼却処理することは、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出につながり、地球温暖化の原因となります。さらに、商品等の製造や、その流通段階をも含めた温室効果ガスの発生量を考慮すれば、地球温暖化への影響は非常に大きなものとなります。

今、未来の地球のために、事業者一人ひとりの努力が求められているのです。

### 世界全体の年平均地上気温の平年差の経年変化

棒グラフは、各年の平均気温の平年差(平年値との差)を示しています。太線(青)は平年差の5年移動平均を示し、直線(赤)は平年差の長期的傾向を直線として表示したものです。平均値は1971～2000年の30年平均値です。



出典:「気候変動監視レポート2007」(気象庁)

世界の平均気温の上昇(国連による観測と予測)

- 1900年からの100年間で約0.74度上昇しました。
- 現在の生活、経済活動を続けると、2100年までに約4℃上昇することが予想されます。

### ◆ 京都市の温室効果ガス削減目標 ◆

基準年(1990年)  
823万トン

→

2006(平成18)年  
773万トン

→

目標(90年比10%削減)  
2010(平成22)年  
741万トン

6.1%減  
(50万トン減)

32万トン  
削減が必要

◎ 地球温暖化対策を総合的かつ計画的に進めるため、京都市では「地球温暖化対策条例」を制定し、2010(平成22)年までに、温室効果ガス排出量を1990(平成2)年から10%削減することを目標としています。

### ■ 一口メモ ■

温室効果ガスとは、太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きをするガスのことです。二酸化炭素がその代表で、地下資源である化石燃料を焼却することなどにより大気中の濃度が増加します。

京都議定書では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄の6項目のガスが温室効果ガスとして指定されています。

## ごみ（一般廃棄物）の部門では22%の削減を目指しています

「京都市循環型社会推進基本計画（京のごみ戦略21）」では、市民・事業者及び市の取組に関する目標として、ごみ処理に伴って排出される温室効果ガスの量を、2001（平成13）年度の20.6万トン-CO<sub>2</sub>/年から、2015（平成27）年度には16.0万トン-CO<sub>2</sub>/年に、22%削減することを目指しています。

## 天然資源の枯渇が進んでいます

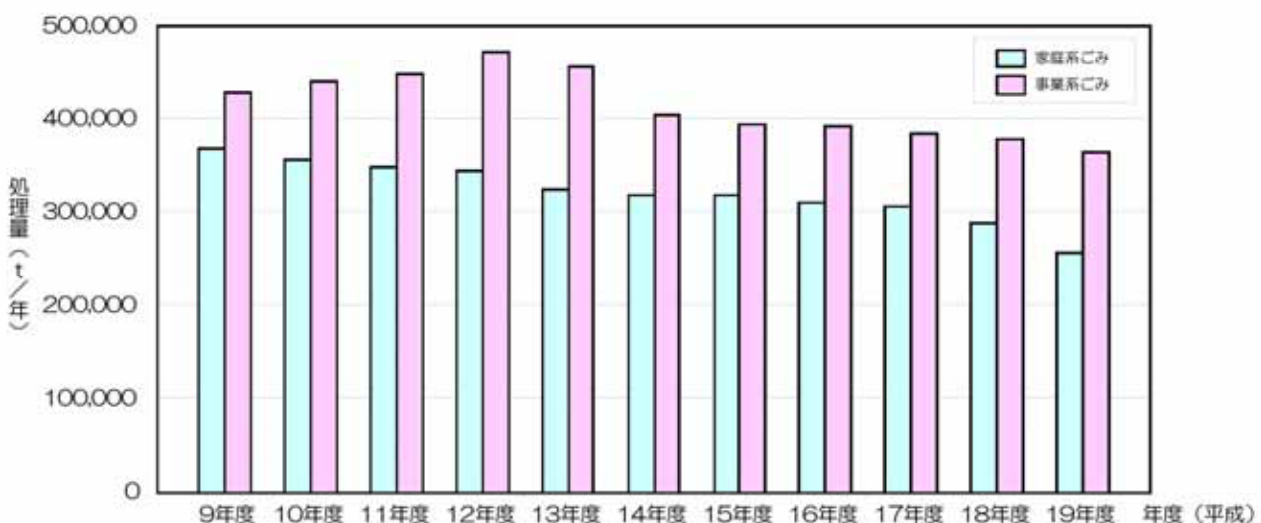
プラスチック製品やガソリン等、私たちの日常生活に欠かせない製品の多くは、限りある資源を消費して作られています。

また、これらの製品がやがて不要になり、ごみと化した際の処理には、焼却施設や焼却灰を埋め立てる最終処分場が必要になります。

こうした施設の建設には非常に大きな費用が必要ですが、ごみの量が減れば、焼却施設を減少させることができるとともに、最終処分場の寿命も長くすることができます。内陸都市である京都市では、新たな最終処分場を建設することは非常に困難で、埋め立て処分量を可能な限り削減する必要があります。

天然資源を少しでも未来に繋げると同時に、焼却施設や最終処分場を、子どもたちに繋げていくためにも、事業者一人ひとりの「ごみの発生抑制・再使用・再資源化」の取り組みが求められています。

京都市のごみ（一般廃棄物）量の推移



## ごみ減量の取組について

### ● ごみ減量により期待できること

#### ■ 地球環境を守ります

3Rを進めることにより、限りある資源やエネルギーの枯渇を防ぎます。  
さらに焼却ごみの減量を通して地球温暖化防止へ貢献することが、美しい地球を次世代に継承することにつながります。

#### ■ 事業所のイメージアップにつながります

ごみ減量をはじめとした環境問題に、積極的に取り組んでいることを社会にアピールすることにより、会社のイメージアップが図れ、社員の環境意識の向上にもつながります。

#### ■ 経費節減につながります

ごみの減量は、処理費用の削減になり、さらに発生抑制は購入する製品の削減にもなることから、経費節減に直結します。